

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年9月7日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	277	32	5	137	136	310
令和6年	235	36	1	108	113	258
前年同期比	42	-4	4	29	23	52

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北ア	槍穂高	53	19.1%	8	0	26	25	59
	後立山	79	28.5%	7	1	37	49	94
	その他	42	15.2%	0	0	29	19	48
計	174	62.8%	15	1	92	93	201	
中央アルプス	17	6.1%	4	1	6	8	19	
南アルプス	11	4.0%	0	2	8	1	11	
八ヶ岳連峰	27	9.7%	3	0	16	9	28	
その他の山岳	48	17.3%	10	1	15	25	51	
計	277		32	5	137	136	310	

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	76	27.4%	19	0	59	0	78
転倒	67	24.2%	1	0	66	0	67
病気	19	6.9%	3	0	0	16	19
道迷い	30	10.8%	0	0	0	46	46
落石	7	2.5%	0	0	7	0	7
雪崩	2	0.7%	1	0	1	1	3
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	41	14.8%	1	0	0	44	45
不明・他	35	12.6%	7	5	4	29	45
計	277		32	5	137	136	310

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	5	5		0	0	1	0	1	6		
20代	1	0	3	14	18	37	0	0	1	5	6	24	55	
30代	3	1	3	7	14	17.5%	0	0	3	8	11	25	17.7%	
40代	4	1	13	11	29	77	1	0	14	3	18	43	120	
50代	6	0	19	23	48	36.3%	1	0	18	6	25	73	38.7%	
60代	5	2	23	20	50	98	0	0	15	8	23	37	135	
70以上	11	1	15	21	48	46.2%	0	0	9	5	14	62	43.5%	
計	30	5	76	101	212		2	0	61	35	98	310		
比率	68.4%						31.6%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（9/1～9/7）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
9月1日	北アルプス 三俣蓮華岳	男	78	無事救出	疲労	単独で湯俣川から伊藤新道を登山中、道に迷い、行動不能
9月3日	北アルプス 前穂高岳	男	82	負傷	滑落	単独で奥穂高岳から紀美子平に向けて下山中、滑落、負傷
9月3日	南アルプス 甲斐駒ヶ岳	男	67	行方不明	不明	2人パーティで北沢峠から入山し、双児山付近で同行者と離れ単独で甲斐駒ヶ岳に向かい、行方不明
9月4日	北アルプス 船窪岳	男	40	負傷	滑落	単独で船窪乗越から船窪岳に向けて縦走中、滑落、負傷
9月4日	北アルプス 槍ヶ岳	男	71	負傷	滑落	単独で北鎌尾根を槍ヶ岳に向けて登山中、滑落、負傷
9月6日	北アルプス 白馬鑓ヶ岳	男	67	無事救出	疲労	4人パーティで猿倉登山口から白馬鑓温泉に向けて登山中、疲労により、行動不能
9月7日	南アルプス 易老岳	男	70	無事救出	疲労	4人パーティで光岳から易老渡登山口に向けて下山中、疲労により、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、**7件**の山岳遭難が発生しました。

先週から9月に入り、秋山シーズンとなりましたが、依然として滑落や疲労による遭難が後を絶ちません。また、先週は槍ヶ岳北鎌尾根を登山中に滑落、負傷する遭難が発生し、今年に入り、北鎌尾根では10件の山岳遭難が発生しています。槍ヶ岳へ続く北鎌尾根は、国内屈指の難ルートです。整備された登山道ではなく、長い岩稜帯が連続し、ルートファインディングや高度なクライミング技術が必要となります。毎年のように、滑落や道迷い、疲労による遭難が発生しています。北鎌尾根を登山される方は、北鎌尾根は、**一般ルートではなくバリエーションルート**であるということ、万が一救助要請をしてもすぐに救助に向かえない場合があり、数日間のビバークを覚悟しなければならないことを理解したうえで、入山してください。

秋は気温の寒暖差が大きく、特に朝晩は急激に冷え込みます。雨風にさらされれば体温を奪われ、低体温症に陥る危険があるため、必ず防寒装備を携行しましょう。

また、秋は日没が早くなるので、予定以上に下山が遅れると、暗闇に包まれ、足元が不明瞭になり、転倒や滑落、道迷い等の遭難を起こす可能性があります。登山を計画される方は、ご自身のレベルに見合った山域を選ぶとともに、ゆとりある計画を立て、ヘッドライトは必ず携行しましょう。